令和６年度　自己評価・学校関係者評価

オイスカ浜松国際高等学校

校訓	教育目標	教育方針
・畏敬 ・知性 ・奉仕	自然の恩恵に感謝し、国際社会に貢献できる心豊かな生徒を育成する。	①「満足度・充実度・幸福度No.1」を追求し、生徒の誰もが「入学してよかった」と満足する学校 ②感謝と奉仕の心を育み、学力と教養を身に付け、180通りの夢の実現をサポートできる学校 ③多文化共生を目指す地域社会と協働し、ＳＤＧｓの普及に向けた取り組みを実践する学校

評価は、Ａ（十分に成果があった）・Ｂ（成果があった）・Ｃ（少し成果があった）・Ｄ（成果がなかった）で示す。

評価対象（担当）	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価	学校としての反省と改善策	評価	意見
学校経営（管理職）	日本の中学校卒業生と留学生がともに学び合う「オイスカ SDGs 教育」を展開し、いわゆる「令和の日本型学校教育」の中で、真の多文化共生を目指す「新未来型国際高等学校」を標榜すべく、理想とする教育活動を実践する。	すべての教育活動が、スクールミッションとどのように関わっているのかを確認し、教職員がその実践のために同じ意識で取り組めるような環境づくりをする。	B	本校スクールミッションの具体的方策を年度当初に示し、その進捗状況の評価を職員会議等の中で実施した。３学期には、その評価に基づき、次年度の具体的方策案を教職員に示し、意見を求めた。真の異文化理解を実現するに相応しい環境は整っているのでそれらを活かしていきたい。また、次年度は留学生の獲得に力を注いでいきたい。	A	交換留学を含め特色ある教育を進化発展させながら展開している。スクールバス運行等で通学しやすい環境整備にも着手したことが生徒数増の一端となっている。特色を活かした教育展開を期待する。
教科指導（教務）	留学生や外国籍の生徒への日本語補習を含めて、学習における面倒見のよさを徹底する。そして入学時より２ランクの学力アップを達成することで、学習面での満足度・充実度・幸福度No.１を目指す。	授業内で基礎学力定着指導の徹底を図る。進学系コース生には、習熟度別授業、各種補習・講習を展開する。タブレットを活用し情報運用能力向上と共に SDGs 教育を高める本校独自の授業・実習・研修を展開し、生徒の学ぶ意欲や満足度向上に繋げる。	B	基礎学力定着のための教材や指導法を教務部主導で示し学習を進め、各種講習を進路別にきめ細かく展開した。総合選抜型受験者に対しても教科を越えて小論文・プレゼンテーション・面接等の指導にあたった。ICT 運用能力の向上と合わせて学力向上に繋げるための指導法を確立したい。本校教育の根幹である環境保全・国際理解教育の充実のために実施されたオイスカ研修は学習成果を高め、生徒の満足度向上につながった。	A	明確な評価基準を示すために検定合格者などの推移も参考材料に入れるべき。生徒参加型授業の実践が生徒の満足度向上に繋がっていると感じる。入学時より２ランクアップの学力向上と留学生の日本語能力向上に今後も期待する。
進路指導（進路）	自己理解や未来について考える力を養う。進路目標達成に必要な知識・学力・技能を身に付けるサポート体制を整える。	進路希望調査・面談を通して生徒一人ひとりの学力や適性、希望を把握し進路指導にあたる。校内外の各種進路行事に積極的に参加させ情報収集に努めさせる。	B	３年生については、学年部の先生方を中心に積極的に進路指導を行い、スムーズに進路決定することができた。１・２年生については、外部業者の協力を得て、進路目標決定につながる情報提供ができた。	A	サポート体制の充実、特にきめ細かな面談により生徒の適性把握に努めたことでスムーズな進路決定に繋がったと感じる。
生徒指導（生徒）	生徒・保護者が安心して健全かつ充実した学校生活を送れるよう努める。満足度・充実度・幸福度No.１に向けて努力し、社会生活で必要となる社会的資質・能力が身に付くよう働きかける。	学校生活の基盤となる HR 活動において基本的生活習慣を身につけさせる。校則やマナーを遵守できる生徒の育成と、教育相談及び保護者との連携を通じて迅速な対応を図る。生徒の心情を把握し適切な生活指導を心がける。	B	校内における不正を正し、安心安全な学校生活構築を目指して、特に頭髪・服装に関する指導の徹底を保護者の協力も得ながら実施した。次年度も凡事徹底を意識させ、継続指導していく。一方、一部の生徒ではあるが、モラルの無さから触法行為に至った事案が発生してしまった。地域との連携の下、日々の生徒との関わりや情報収集に一層努力する必要がある。	B	服装含めて厳しく指導していると感じる。今後も凡事徹底と同時に問題行動の早期発見、迅速・適正な対応、一貫した指導継続を期待する。人として基本である挨拶指導について意識向上を期待する。
部活動指導（生徒）	部活動における生徒の満足度を高めると共に継続的に活動に取り組み協調性を育む。	部活動に継続的に参加することにより学校生活に潤いをもたせ、充実した活動の場とする。個人・チーム力向上を目指し「心技体」を重んじた指導に努める。	A	特待生を含んだ強化指定の部活動においては意欲的な活動が出来ている。一方、文化部においても活動に満足感が得られるよう更に活動内容・実績に拘った活動計画が必要である。	A	指導教員の意欲的な関わりに感謝している。今後も活動実績と活動内容の両面において生徒の満足度向上に繋げてほしい。
健康管理（生徒）	生徒が主体的に健康について意識を高められるよう指導する。 具体的には、意思決定の判断力を高める、ストレスへの対処、コミュニケーションスキルを習得させる。	健康診断を通して、自分自身の健康についてより深い関心を持たせる。教育相談部と連携し、さまざまな取り組みを通して自己実現を目指すよう支援していく。	B	定期健康診断については、正確・安全に実施できた。再検査対象者の早期受診は改善傾向にあるが、法的に必要な健康診断未受検者も存在する。家庭の理解と協力を得るために尽力したい。不適応状態の生徒については教育相談部等と連携し支援体制が確立できた。	B	健康診断未受験者が存在することは大きな問題である。保護者への協力依頼とあわせてソーシャルワーカーや行政に援助を求めることも必要だと考える。
寮生指導（寮務）	学期毎に年間目標を振り返り、意識が低下しないよう指導していく。 寮生会の役割を全員で分担し、責任をもって取り組ませる。	生活の基礎・基本を身につけさせると共に、生徒たちが積極的、能動的に運営していける寮生会組織の土台を作る。満足度向上について意識を高め、そのための環境整備を継続的に進めていく。	C	規則正しい寮生活を通じて人間的な成長を育成するために指導を繰り返した。特に凡事徹底を掲げて日々指導にあたった。 2 学期末には少数の心無い行動により学校内外に多大なるご迷惑をかけてしまった。寮の管理体制の見直しや再発防止・生徒の安全確保のためセキュリティー面を含めて早急に改善していきたい。	C	夜間の管理体制など安全確保のために見直しが必要である。セキュリティー面の向上のために外部システムの導入を検討すべきである。問題行動の発生原因を分析することも必要である。
留学生指導（留学生）	授業や補習等を活用し留学生の日本語力の向上に努め、より高い日本語能力資格の取得を目指す。語学力向上のためにも校内での日本人との交流機会を増やし、コミュニケーション能力も向上させたい。	１学期の授業を通じて学業に取り組む姿勢について指導し、卒業までの基盤を作る。留学生と教員が意志の疎通を図り留学生が、学校生活に早期に馴染めるようサポートし、生徒間交流の懸け橋とする。	B	新入留学生の日本語指導において、日本語能力向上と合わせて学習に取り組む姿勢や生活態度について重点をおいて指導した。 また、本校の多様性理解教育を実践すべく、国籍にとらわれない生徒間の交流を促してきた。 今後も卒業後の進路を見据えて計画的に学習できるよう指導していきたい。	B	日本人生徒との深い交流が実現し満足度が高いことは評価できる。今後は留学生に対する具体的目標を設定し、日本語能力検定合格や希望進路の実現に繋げてもらいたい。

評価対象 （担当）	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価	学校としての反省と改善策	評価	意見
広報 （広報）	令和７年度 180 名入学を達成するための方策を検討・実践する。 留学生指導部と連携し、留学生募集について具体的な方策を検討・実践する。	オープンスクール・学校説明会・メディアを利用して学校の魅力をＰＲしていく。 多くの留学生が本校のＨＰにアクセスするように留学生の学校生活を紹介する。英語版の学校案内も作成する。	A	学校説明会では、本校の魅力を効果的に伝えることができた。また、TVCM を通じて学校紹介やオープンスクールの告知を行い、多くの関心を集めた。 中学校訪問では、東西に訪問範囲を広げ、各中学校への訪問を強化した。特に、訪問時に配付するチラシにも工夫を凝らしカリキュラムや部活動紹介などの情報も盛り込んだ。その結果、中学生の早い段階での学校説明会参加に繋がった。 また、留学生募集においては、留学生指導部とのスムーズな連携が実現した。英語版の学校案内も完成し、留学生への情報提供体制を整えた。	A	中学生や保護者が興味をもつ紹介パンフレットの作成について保護者の意見を取り入れたのは評価に値する。今後も受験生が何を知りたいか調査していく必要がある。学校見学会時の授業体験では先生方の情熱や工夫に感心した。細部に拘った広報活動を通じて多くの生徒が入学していると感じた。
企画・研修 （企画研修）	学校生活全般での、全生徒の満足度・充実度・幸福度の向上のため「ウエルネス」に関わる体制つくりをする。 生徒参加型授業を構築し、「オイスカ版学び方を学ぶ」学習方法を確立する。	教育相談センターと協働し生徒の「ウエルネス」の向上のための仕掛けをする。 「教育ファシリテーション」「授業のユニバーサルデザイン化」の技法を取り入れ「生徒参加型授業」を通し「学び方を学ぶ」学習を積み重ねる。	A	「ウエルネス」向上プログラムを通じて生徒の中にも「ウエルネス」の意識は根付きつつある。また、研究授業をはじめ、毎週末発行の「研修だより」による発信に関わり、授業改善をはじめとする教科指導体制、および、全学級担任による温かみのある指導体制が整いつつある。今後は「進路実現」に向けてのキャリア教育体制も整え、学習意欲・生活意欲を高める方策をとっていきたい。	A	定期的に発行される「研修だより」を通じて、ウエルネスの向上、教育のファシリテーション、授業のユニバーサルデザイン化等を職員に浸透させようという強い学校の意思を感じる。その成果が生徒の満足度向上に繋がっていると感じる。
防災 （総務）	年２回の防災訓練を実施する。 ＡＥＤ講習を実施する。	全校避難訓練を実施する中で抜き打ち訓練に挑戦する。 ＡＥＤ講習は、職員のみならず、新たにスポーツウェルネスコース生への実施も検討する。	A	４，９月に避難訓練を実施。迅速な安全確保の観点から集合形態を工夫した。７月には職員向けのＡＥＤ講習を実施。毎年の訓練を定着させたい。また、８月の大地震の経験から東南海トラフ地震に備えた体制の強化も今後の課題である。	A	今後も不測の事態を想定し計画的に避難訓練・AED 講習を継続してもらいたい。地域としても避難訓練含めて協力していきたい。
事務 （事務）	School Compliance に基づいた適切な運営を行う。来校者や生徒に親切・丁寧な対応をする。	定められた手続きに準拠し、適切な事務が執行されるように事務部を運営すると共に、生徒及び来訪者に親切・丁寧な対応をする。	B	関係諸機関からの通達を守り、実態調査等滞りなく進めたが県から訂正等の指摘があり、その都度対応した。 生徒及び訪問者へは常に親切・丁寧を心掛け対応できた。	B	自己評価以上の達成を感じる。来校者対応については保護者や訪問者から意見を伺う機会も必要だと感じる。
ユネスコスクール （国際交流）	ユネスコスクールとして、「ユネスコの３本柱」に沿った学校運営・学校教育・学校活動を展開する。 新たに学校内外における国際交流活動の企画と運営を創出する。	・ユネスコスクールの目的に沿った活動を行う。 ・「国際理解教育」を取り入れた教科横断型の授業づくりを学校全体に働きかける。 ・インドとの交換留学を成功させ国際的な相互理解を深めていく。	B	関係部署と連携を取りながら実績に向けて活動を行ってきた。ユネスコキャンディデート校として、ユネスコの趣旨に沿った教育活動を行った。一方、国外審査の提示がない状態が続いていたが、国外審査の選考日も決まり（R7.1.31）、それに向けた準備を行っている。	A	ユネスコの趣旨に沿った教育活動が実現できた証としてユネスコスクールの認定がある。インド交換留学も成功したことは評価に値する。国際理解教育の実績を高く評価する。
SDGs 教育 （SDGs 推進本部）	教育目標・教育方針の実践に向けて、教職員に具体的な SDGs 教育運営を示す。 自然の恩恵に感謝し、国際・地域社会に貢献できる心豊かな生徒を育成する。	・日常の生活と SDGs の関りを理解するために掲示物を活用し気づきを与えていく。 ・効果的なポートフォリオを活用する。 ・地域に求められた持続可能な協働活動を実践する。	A	SDGs 教育を教科として年間指導計画に取り入れ実践した。今後、教科全体の年間指導計画の作成・活用の時間を設けて作成していく。産官学連携で多くの地域課題に取り組み、商品開発や環境保全活動、国際協力活動を実践。メディアへの出演や各種コンテストで多くの受賞を果たした。	A	環境教育の実践が多方面から評価されていることを嬉しく思う。今後も学校独自のオリジナルプロジェクトや生徒の自主的活動を核に実践を進めてもらいたいと思う。
スポーツウェルネス （SW コース）	スポーツ・健康面から自らのライフスタイルを構築できる生徒の育成を目指す。	年次教育目標を達成させるための授業の構築を図る。提携先の静岡産業大学と連携を深めコース単位・部活動単位での効率的な授業運営を図る。部活動においては授業外での交流も深めていく。		スポーツ総合演習の授業内で、常葉大学鍼灸学部・静岡産業大学・浜松医療学院とのタイアップ授業を実施。スポーツに携わる仕事を知り、体験できたことは良かった。今後は企業ともタイアップをしていきたい。	A	コースの学習内容は非常に興味深い。大学との提携を通じて生徒の希望進路を実現し、コースへの満足度向上に繋げてもらいたい。
通信制 （通信制指導部）	中学時代は不登校のため授業に参加できなかった生徒が多数いる状況で、基礎学力の定着を図り、学ぶことの楽しさや大切さを教えていく。また定期的に登校させることで基本的生活習慣の改善を図っていく。	中学の復習を含めたレポート作成を通して基礎学力の定着を図る。学習に取り組む姿勢を教えると共に、充実感が得られる行事を含めた教育環境を構築していく。学習面だけでなくメンタル面のサポートも重点として取り組んでいく。	A	在籍生徒は 1 年生 12 名、２年生 11 名、3 年生 1 名の計 24 名である。ほとんどの生徒が中学時代は不登校経験者であるが、特別活動やスクーリング、テストなどは全員が出席し真面目に受講できた。3 年生（１名）も無事に就職先が決まった。2 年生については今後進路指導に力を入れていく。	A	通信制生徒の実態に合わせて適切な学びが実現している。きめ細かな個々への指導の成果が生徒の行動となって表れていることを嬉しく思う。

課題・検討事項・学校運営に関するご意見等

個別の対象への評価はランクによります。
長年、高校の歴史を見ていますと創立当時の精神を現代の有り様に合わせ生かしていると思います。
引き続きオイスカ精神を体現すべく生徒育成にあたってほしいを思います。